第7回香美・香南地区短詩型文学振興大会

（9月7日・香美市役所）

香美・香南地区文化協会長賞

※掲載している受賞作品は市内の方の作品のみです。

短歌の部

（選者　岡崎桜雲氏）

- 特選　のこされて生きるよすがに徐に　美化されてゆく逝きたるひとは　佐竹　玲子
- 佳作　丈をなす草と戦う日々ですと　墓前に今日は愚痴っています　吉本　悦子
- 佳作　わが夫のバラ応急のガムテープ　茎に巻かれて雨にぬれゐる　古川　安子
- 佳作　お守り袋が右に左に飛びはねる　一心不乱に踊るよさこい　大石紗智子
- 互選高点賞　降る雨に木の葉がぐっと膨らみて　わが家の庭がいと狭く見ゆ　山下　弓枝

俳句の部

（選者　前田欣一氏）

- 特選　お日さまの集まって来る日向水　小松　愛子
- 優秀　夕焼の海より戻る珊瑚船　西川　常夫
- 佳作　ずり落ちる天の一角酷暑来る　山﨑　鈴子
- 互選高点賞　遠き日の学童疎開冷し瓜　佐竹　洋子
- 互選佳作　捨て切れぬもの心中に梅雨深む　吉田　芳
- 互選佳作　少年期たとへばラムネ玉の音　橋本　昭和

吉井勇記念館だより

特別展　吉井勇と竹久夢二　10月2日～12月16日

祇園の甘美な世界を詠った吉井勇。大正時代に出版した歌集には、大正浪漫を代表する画家・竹久夢二による装丁が多く見られます。当館所蔵の勇の作品と中土佐町立美術館所蔵の夢二の版画を展示します。

山里ミニコンサート　10月19日（土）14時～15時

香美市童謡を楽しむ会の皆さんによるコンサートを開催します。**参加無料。**

土佐山田町在住の島崎照代さん（メゾソプラノ）を講師に迎え、長井薫さんのピアノ伴奏にのせ、なじみ深い日本の曲を披露します。

※雨天の場合、記念館隣の猪野々集会所

菊花展　10月30日～11月4日

香美市内の菊愛好家が、丹精込めて育てた菊花を展示し、11月2日（土）、3日（日）は、10時～16時に無料喫茶コーナーを開設します。

秋風コンサート　11月2日（土）14時～15時

たちばなハーモニカクラブの皆さんによる、コンサートを開催します。**参加無料。**

※雨天の場合、記念館隣の猪野々集会所

13時15分より、学芸員による館内案内・展示解説があります。（要入館料）

送迎バスもあります。要予約。本庁舎前（12時30分発）～香北支所前（12時50分発）

■問い合わせ・申込先　吉井勇記念館　☎58・2220

香美市文芸　風の流れ

◆一般投稿作品◆

広報委員会　選

一と握り足りぬ悔あり稲の花　福留とものり
こぼれ萩背中につけて犬帰る　山崎　貴子
父母の踏みたる路よ月今宵　森本　幸美
雨あがりタイガーメロンの香る畑　坂本美智子
幾棟を住まぬ家敷の大夏木　岡田美代子
裏口の夜風に秋の気配かな　北村千鶴子
蝉しぐれ今年は聞かず淋しけり　有澤　春江
甘き香や暮れ残りたる花臭木　千頭　野草
大花火湖底の村も目覚めけり　森本　純喜
夏痩も無病息災介護負う　高野　和一
りゅうきゅうの子生えもいつか草の中　小野寺朱実
あじさいやひ孫生れしと嫁のTEL　小原　子川
鹿よけの網をつき出でし独活の花　楮佐古きよ
炎天に踏出す一歩勇気かな　山﨑　寿美

◆韮　句　会◆

刀豆ののたりのたりと下がりけり　公文　春紀
無患子を知らぬ子ばかり大社　高橋　章
無患子や鬼籍に入りし友の数　北村　幸子
水深く沈めてありぬ新豆腐　西川　常夫
幟立て砦の如き崖の家　甲藤　卓雄
黒南風や艇庫へ運ぶヨットの帆　野崎　典子
涼新た背筋伸ばして橋の上　北村　里子
秋あかね風が持ち上げ群れて飛ぶ　小野川順子
秋涼の風に誘われ土間洗う　前田　芳子
孫に添ひ爺も討ち死に昼寝ざま　竹内　ろ草

◆かがみ野俳句会◆

八重垣や涼風はらむ禰宜の袖　佐竹　洋子
青柚子を摘みし手香る夕支度　佐藤　幸
天の川平和を願ふ流れかな　利根　弘子
電線に巣立つ燕の絆あり　古川　信子
あひたさのつのれど遠し天の川　小松　愛子
閉じられし窓に花火の音拾ふ　中澤　美晴
天の川渡る思ひの恋をして　山﨑　鈴子
目薬の一滴逸れて今朝の涼　吉田　芳

◆かほく俳句会◆

銀漢や母に添ひ寝の枕寄せ　乾　真紀子
今生を生きし命や秋の蝉　奥宮さとみ
水打ちて誰待つこともなき一人　黒岩千英子
山なれど残暑厳しき我が住処　小松　昇
早稲熟れる農捨てし身に憂ひ無し　小松　隆之
田廻りの風に匂へり稲の花　小松　完
九十の母漬けくれし梅届く　杉山　春萌
店開けて朝一番の鬼やんま　野村　里史
人間に限界のあり大旱　前田　欣一
芙蓉やや吹かれ洗濯日和かな　間崎　和代
木に隠れ草に隠れて草を刈る　前田　智女
流灯の何時しか触れて寄り添ひぬ　山崎かずみ
柚子の実の小振りとなりし大旱　山中　晶子
幸はこんなものかも冷奴　山中　瑞輝
三食のいづれもトマト卓にあり　山中　明石
風鈴と風と心を一つにす　森本　之子

◆土佐山田町俳句会◆

家中をうろたへており鬼やんま　明石　韮生
追憶で終へてはならぬ終戦忌　大石　邦男
立秋のしづかな葬に出合ひけり　橋本　昭和
馬喰の通った道の猫じゃらし　安丸　槇子
物干しにゴーヤの迷い蔓からむ　前田美智子
終戦日聴いたラジオは宝物　川谷　泰山
昼からの出番でごんす油蝉　森田　貞男
この奥に水の神様夾竹桃　森田　菊恵
子ら去りて盆明けの水荒使ふ　前田　小夜
幼子のかるき寝息に団扇風　笹岡　英世
蜩に急かされ母が米を研ぐ　樫谷　雅道
風化するものの中なる震洋忌　田村　一翠

今月のキラリ

大花火湖底の村も目覚めけり

大輪の花火が湖面を染める。その明るさは湖底に沈んだ村を照らし、そこに暮らした人々の暮らし向きまでもよみがえらせる。

俳句・短歌の投稿方法

- ▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
- ▼かい書で、住所・氏名・電話番号を必ず明記してください。
- ▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
- ▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）　FAX 53・5958